

新日鉄住金エンジンリアリングの技術を結集した新免震装置「NS-SSB」が初採用された、山九の西神戸物流センター新築工事（仮称、神戸市西区見津が丘）。万が一の地震時にも、NS-SSBが大型物流施設の機能を維持する。このほど現場を取材した。

山九・物流拠点

建設場所は神戸西インターチェンジにアクセスしやすい複合産業団地、神戸テクノ・ロジステックパークの一角。約2万平方メートルの敷地に、延べ床面積約3万平方メートルの鉄骨造7階建の大型物流センターが建設されている。

工事が進む西神戸物流センター①と新免震装置施工



新日鉄住金エンジの新免震装置初採用

る。工事期間は昨年6月から3月の約9カ月間。3月31日に引き渡し予定。

NS-SSBは昨年、国土交通大臣認定を取得

長を持つ。

けでなく、設計面でも

（山本 章央）

コンパクトな装置69台 設計・施工、「管理が容易」

「施工管理がしやすい（坂元俊洋所長）。コンパクトな装置により免震できるため、施工間も軽減できる。直接基礎上に礎柱、支圧プレートを構築し、装置を設置するのみ。その上の躯体柱を支えている。普及しているゴム免震装置では、免震を装置自

リットを持つという。初適用ということ、この現場のため、1分の1のモデルを使って試験した（坂元所長）」と、念には念を入れて実際に施工に移ったが、全く問題はなかったと話す。

同物流センターは、施工も新日鉄住金エンジンが担当。全体の鉄骨使用量は約4000ト。NS-SSBは69台使用した。場所によってスライダ径を使い分け、より経済的に免震を実現した。最大で450ミを4台使用し、最小では200ミを5台使用した。

鉄骨製作は第一テックウ商事が担当。胴縁には新日鉄住金のスーパーダイヤを採用し、大梁では外法一定H形鋼「ハイパードーム」は1500トを使用した。設計・施工上のメリットだけでなく、実際の免震機能も高い。すべり板の球面半径のみで固有周期が決定されるため、建物や積載荷重の影響を受けない。そのため、今回の倉庫のように、入出庫により積載荷重が変化する場合に、安定した免震性能が実現できる。初適用の竣工前に、現在でも引き合いが増えていくという。初実績を積み上げることで、コンパクトで品質安定性に優れているNS-SSBは、さらにマーケットに浸透していきそうだ。